

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名：日高自動車道（一般国道235号） <small>あつがしずない</small> 厚賀静内道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北海道開発局	
起終点：白：北海道 <small>さる</small> 沙流郡日高町 <small>ひだか</small> 字美原 <small>みはら</small> 至：北海道日高郡新ひだか町 <small>しずないこまば</small> 静内駒場	延長：15.0 km		
事業概要： 日高自動車道は、北海道縦貫自動車道苫小牧東インターチェンジから分岐し、浦河町に至る延長約120kmの一般国道の自動車専用道路であり、北海道縦貫自動車道と一体となり道央圏と日高地域を結ぶ高速交通ネットワークを形成するものである。 このうち、厚賀静内道路は、(仮)厚賀インターチェンジから(仮)静内インターチェンジに至る延長約15kmの区間であり、高速交通ネットワークの拡充による特定重要港湾苫小牧港、新千歳空港等への物流の効率化等の支援を目的とした道路である。			
H7年度事業化	H-年度都市計画決定	H-年度用地着手	H-年度工事着手
全体事業費：約482億円		事業進捗率：6%	供用済延長：0.0km
計画交通量：10,100～10,800台/日			
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 2.3 (残事業) 2.5	総費用： (残事業)/(事業全体) 351/382億円 (事業費：317/348億円) (維持管理費：34/34億円)	総便益： (残事業)/(事業全体) 864/864億円 (走行時間短縮便益：715/715億円) (走行経費減少便益：115/115億円) (交通事故減少便益：34/34億円)
基準年：平成22年			
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.8（交通量+10%） B/C=2.2（交通量-10%） 事業費変動：B/C=2.3（事業費+10%） B/C=2.7（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=2.0（事業期間+20%） B/C=2.8（事業期間-20%）			
事業の効果等 定性的な効果 ①拠点都市へのアクセス向上 ・日高地方の拠点都市である新ひだか町と苫小牧地方の拠点都市である苫小牧市及び道央圏の拠点都市である札幌市へのアクセス向上に寄与する。 ②農水産品の流通利便性向上 ・日高地域で生産される軽種馬、ミニトマトの流通利便性向上が期待される。 ③高次医療施設へのアクセス向上 ・高度な医療機能を有する苫小牧市への救急搬送時における迅速性の向上、安全性の向上が期待される。 ④都市間バスの利便性向上 ・高速交通体系の強化及び定時性の確保に寄与し、通院患者の負担軽減など都市間バス利用客の利便性向上が期待される。 ⑤空港へのアクセス向上 ・花卉やイチゴは新千歳空港を経由して道外に出荷されており、新千歳空港と日高地域との流通利便性向上が期待される。 ⑥重要港湾へのアクセス向上 ・苫小牧港から輸移入される石油製品、飼肥料などの物流円滑化が期待される。 ⑦観光地へのアクセス向上 ・新冠町、新ひだか町の主要観光地へのアクセスが向上し、道央圏や十勝圏との有機的な連結が図られ、地域の活性化が期待される。 ⑧防災対策や危機管理対策の充実に寄与 ・幹線ネットワークが多重化し、防災対策や危機管理対策の充実に寄与する。 ⑨CO2排出量の削減 ・当該道路の整備により自動車からのCO2排出量が削減される。			
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 厚賀静内道路は、救急患者の搬送時間短縮、災害時の避難・代替路の確保、札幌圏や空港アクセス等の物流拠点と高速交通ネットワークによる物流の効率化や地域資源を生かした観光施策の推進を図るため、日高町など1市11町の首長等で構成される高規格幹線道路日高自動車道早期建設促進期成会他より整備促進の要望を受けている。			

知事の意見：

日高自動車道は、苫小牧市と浦河町を結び日高地区を縦断する高規格幹線道路であり、物流の効率化等を図ることにより、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化はもとより、軽種馬に代表される地域産業の発展に寄与し、災害に強い交通ネットワークの形成を図ることから、当該事業の継続については異議はない。

なお、事業の実施に当たっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト縮減により総事業費の圧縮を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断するが、今後は以下に留意されたい。

- ・ 3便益以外に地域の特殊性等を考慮した多様な便益についても適切に反映するよう、引き続き検討されたい。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・ 平成17年度日高自動車道日高富川IC供用
- ・ 平成17年度「日高町と門別町が合併」「静内町と三石町が合併」

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成7年度に事業化し、用地進捗率0%、事業進捗率6%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や工法等の変更はないが、引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

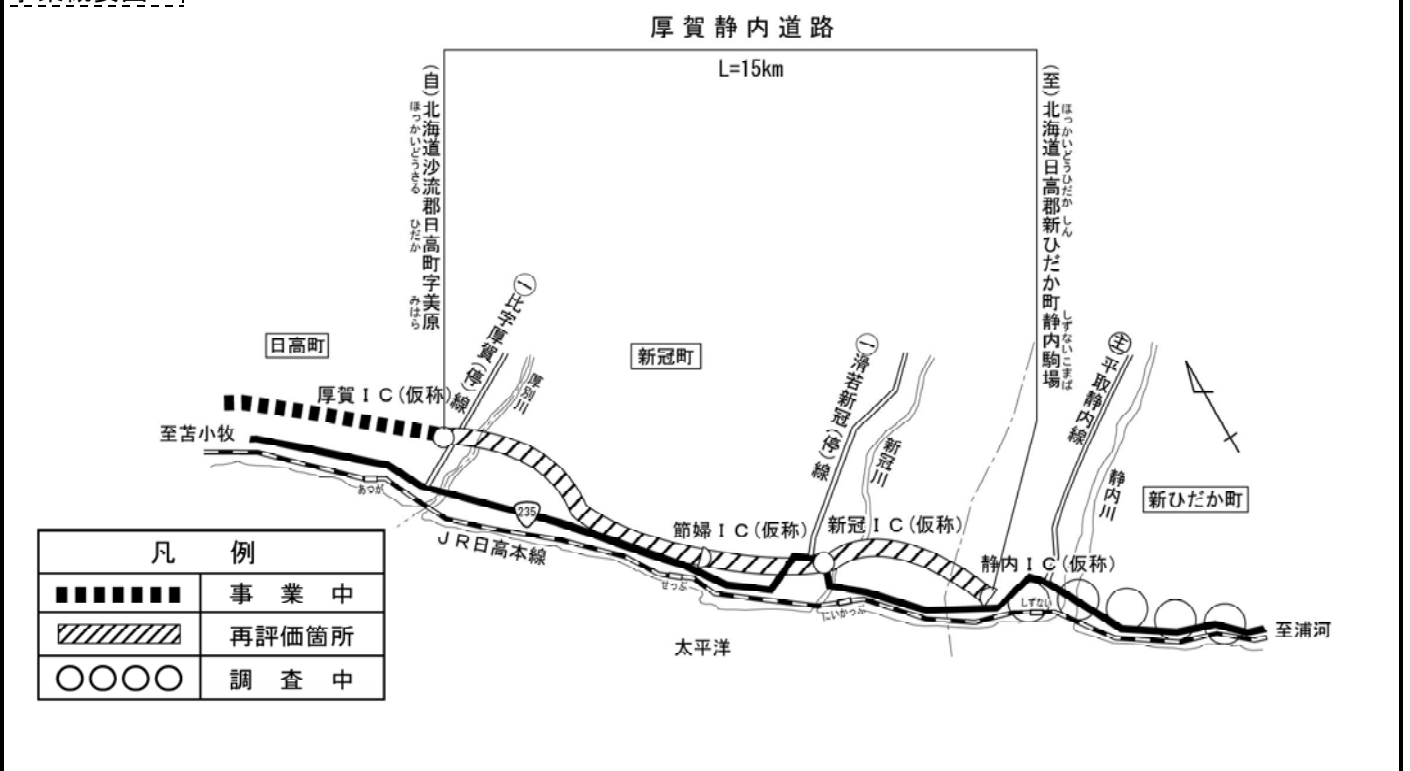
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性に変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。